

423 ミネラルバランスからみた飲料水の水質評価について
 (大阪大・工・環境) 橋本 稔・藤田正憲
 (日清食品中央研究所) 南 純一

1) 目的 最も理想的な飲料水は、健康に良くしかもおいしいものでなければならぬはずで、その水質を決めることは極めて難しい問題である。そこで、健康に良い水、おいしい水とはどのようなミネラルバランスのものかを検討した。

2) 方法 都道府県別の脳卒中死亡率のデータ、それに脳卒中死亡率と河川水の化学成分のデータをもとに、健康に良い水の要件を検討した。おいしい水の要件については、当研究室で分析した全国各地の上水道の水、昔から名水にこぞえられている水、鉱泉水、それに「エビアン水」のミネラル成分分析結果をもとに検討した。

3) 結果 (1)脳卒中訂正死亡率と各地域河川水成分との間の回帰式に、全国で脳卒中死亡率の最低値を示す兵庫県の最低値を代入し、脳卒中死亡率の最低値を示す水質(pH, ミネラル濃度)を明らかにし、これが兵庫県の主たる河川水の水質に近似していることが判った。又、神戸市布引上水の水、大阪柴島浄水場の水の無機成分とその比率は、脳卒中死亡率最低値を示す水のそれと近似していた。(2)全国各地の飲料水の分析結果をもとに、おいしい水とミネラル成分の関係を検討し、溶生ケイ酸とKの濃度が水の味に密接に関係していることが判った。(3)健康に良い水とおいしい水との間には、必ずしも相関がみられなかった。

Evaluation of drinking water qualities from the view-point of mineral balances.

Susumu Hashimoto, Masanori Fujita & Junichi Minami*.

Department of Environmental Engineering, Osaka University. * Central Research Institute, Nissin Foods, Co., Ltd.